

# 2016年6月10～12日四日市東日本大震災支援の会 第33回派遣 宮城県東松島市&福島県葛尾村 交流ボランティア

(確定版) 2016年5月10日

四日市東日本大震災支援の会 代表 鬼頭浩文(四日市大学教員)

震災から5年がたちました。宮城県東松島市では、集団移転が急速に進んでいます。また、原発事故で全村避難が続いている福島県葛尾村は、帰村に向けた準備が進められています。どちらも復興に向けた歩みではありますが、まだまだ先が見えない状況にあり、動き始めたために新たに発生する課題も多くあると聞きます。東北の仮設住宅では、高齢者比率が高くなり、孤立などの問題が深刻で、まだまだ交流促進など心の支援が必要とされています。新入生の皆さん、ぜひ参加をしてください。

宮城県東松島市；宮城県石巻市の西、松島町の東に位置し、2011年の東日本大震災では、沿岸地域だけでなく、海岸線から数キロ内陸まで津波が押し寄せ、住宅地の65%が浸水し、たくさんの方が亡くなり、多くの家屋が全壊・流失の被害を受けました。

福島県葛尾村；福島県浜通りの山村で、原発事故の影響を受けて全村民が避難中です。まだ自宅に住むことができませんが、ふるさと葛尾村を取り戻すため、頑張っているらしいです。

## <活動>

- 宮城県東松島市仮設住宅での交流ボランティア（お茶会&足浴）
- 福島県葛尾村の仮設住宅(三春町にある)での交流ボランティア（お茶会&足浴）
- 被災地視察(大川小学校など)

## ★申込方法・参加費

**申込**：以下の情報をメールで送信するか、同意書に記入してください。

- ★氏名・フリガナ・性別・生年月日・郵便番号・住所・携帯番号・緊急連絡先
- ★保護者と参加者本人がサイン・捺印した**参加同意書を提出**してもらいます。
- ★申し込み後に、ラインのグループに参加いただき、説明会などの情報を流します。

## **参加費**

生徒・学生 18,000円（スタッフ(現地で5日以上活動を体験した支援の会会員)は9,000円)

一般社会人 28,000円

## <費用の内訳>

- ・四日市大学ー宮城県の往復バス・現地での移動、11日の昼食、入浴
- ・ボランティア活動保険・旅行保険

★10日の夕食、11日朝食・夕食、12日朝食・昼食は各自負担です。

## **申込先・参加費支払先**

★四日市大学は鬼頭まで、看護医療大学は小寺まで。

★問合せ先：鬼頭；携帯電話：090-4266-2348

メール：[kito@yokkaichi-u.ac.jp](mailto:kito@yokkaichi-u.ac.jp)

## **キャンセルに対する考え方**

・支援の会は、極めて財政的にギリギリの運営をしています。突然のキャンセルがありますと、支援の会にとって大きな痛手となります。6月3日以降のキャンセルの場合、新たな参加者の募集は困難であり、食事・保険など節減が可能な部分の費用を除いた、生徒・学生16,000円、一般社会人26,000円のキャンセル料をお支払いいただきます。ご理解ください。



がんばろう、  
日本。

## <スケジュール概要>

### ★6月10日(金)

19:00 四日市大学9号館ロビーに集合

1. 参加者全員で直前ミーティング
2. 名札・ボランティア保険証書を配布します(活動中は必ず首にかけてください)

20:00 四日市大学出発(四日市大学バス停裏の職員駐車場)

1. 最初の休憩(刈谷)では夕食の購入、2回目の休憩で歯磨きなど寝る準備をしてください
2. 就寝(完全消灯をします。全席フルリクライニング)

### ★6月11日(土)

7:00頃; 上品の郷サービスエリアで朝食(各自負担)と洗顔(30分程度の休憩)

8:00 大川小学校の視察(津波で84名の児童と先生が犠牲になった学校です)

10:00 矢本運動公園仮設住宅集会所に到着、降車・荷物搬入・ミーティング

10:30 から準備と戸別訪問(11時半までには終了して集会所に戻ることに)

1. 戸別訪問チームは、高校生・大学生混成、手分けをして案内配布
2. 準備チームは、集会所内の配置を決めて準備開始

11:30 集会所にて昼食(弁当を支給します)

12:30 交流ボランティア(告知は13:00としますが、早めにスタートします)

16:00 片付け終了後 ⇒ 「ゆふと」にて入浴

- 入浴後は自由行動、夕食は各自でとること。食事できる場所は、マップを配布します。

20:00 語り部さんによる講話

21:00 仮設住宅集会所で宿泊・消灯

### ★6月12日(日)

3:30 起床 片付け・掃除

4:00 バス出発 ⇒ 出発して30分のサービスエリアで休憩、洗面・トイレ・朝食購入

6:30 安達太良SAで休憩・トイレ⇒8:30 三春町到着

9:00 葛尾村仮設住宅(三春町)での交流会

11:00 終了 ⇒ 帰路に

20:00頃 四日市大学帰着 ⇒ 片付け ⇒ 解散

## <持ち物(バス内では、座席には最小限の荷物だけを持ち込むこと)>

- ・筆記用具(活動中に記録をとる小さなメモ帳は必ず用意してください)
- ・健康保険証・常備薬・歯磨きセット
- ・お金(親戚やお友達などに、たくさん土産を買ってくることも、大きな経済的支援です)
- ・かさ・帽子・電池式携帯充電器
- ・エプロン(交流会では、全員が着用します)
- ・ボランティア活動保険証書(支援の会で加入し集合した時に配布します)
- ・マクラ・クッション・バスタオル・マスクなど(バス移動と集会所宿泊に利用)
- ・入浴用タオル、着替え、ビニール袋 ★往復のバスではトランクに入れる

## <注意点、守るべきこと>

- ・被災者の気持ちに寄り添い、傷つけるような言動をしないこと
- ・積極的に被災者に対し、家族や友人、お姉さん、お兄さんのように笑顔で接しましょう
- ・家族を失ったり、家を流されたり、被災者が大変な経験をしていることを常に忘れないでください
- ・指示されたことだけでなく、自分で考えて行動しましょう
- ・名前や職業・住所を聞くことは、基本的にNGです。深い絆ができれば、交換もOKです。
- ・写真撮影は深い絆ができてからにしましょう
- ・活動中の写真や映像が、ホームページや報道で使われることがあります。了承ください。

## <福島県内の行動エリアでの平均空間放射線量>

交流会会場の三春町では、ほとんど $0.2\mu\text{Sv/h}$ 以下の値で安定しています。今回の活動では、おおよそ $1\mu\text{Sv}$ の被ばくとなります。これは、胸部X線検診の被ばく線量の50分の1程度、成田とニューヨーク往復と比べると100分の1程度の被ばくです。ちなみに、三重県内の放射線量は $0.04\sim 0.09\mu\text{Sv/h}$ です。

## <高速バス運行体制>

本会の東北派遣では、費用よりも安全という考え方を徹底しており、運転手2名体制での運行、運転手の現地での十分な休息確保をしております。そのため、現地での活動で不便なことがあります。ご了承ください。今後も、さらに安全運行を徹底するよう、会としても努力を続けます。

\* JTB総合提携店(株)第一観光(担当:黒田真史)を通じ、三重交通 or 名阪近鉄のバスで宮城県を往復